

平成29年度 教育課程編成委員会 報告書

学校法人 センチュリー・カレッジ
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー



平成29年度 第1回 教育課程編成委員会 開催記録・議事録

1. 日時及び場所：

(1) 日時：平成29年12月5日（火） 18:30～20:30

全体会議 18:30～19:30

分科会 19:45～20:30

(2) 場所：専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 2階 第4・5教室

2. 出席者

(1) 教育課程編成委員

神戸 晃男（公益社団法人石川県理学療法士会 会長）

東川 哲朗（公益社団法人石川県作業療法士会 会長）

山崎 隆幸（独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院 リハビリテーション士長）

西田 好克（医療法人社団和楽仁 芳珠記念病院 リハビリテーション室 係長）

田福 智幸（医療法人社団慈豊会 久藤総合病院 リハビリテーション科長）

中森 清孝（医療法人社団長久会 加賀のぞみ園 作業療法士）

(2) 本校教職員

加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）

黒田 智利（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）

狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）

種本 美雪（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長代理）

曾山 薫（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 教員）

3. 欠席者

井上 良（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長）

[敬称略]

4. 会議次第

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 委員、教職員紹介
- (4) 学校評価と教育課程編成委員会についての概要説明
- (5) 学校概要説明
- (6) 学校、学科の人材育成像とシラバスの説明
- (7) 平成28年度 授業評価 報告
- (8) 平成28年度 臨床実習指導者の評価 報告
- (9) その他 報告
- (10) 委員（外部）からの意見収集
- (11) 閉会

5. 配布資料

- (1) 平成29年度シラバス
- (2) 学校評価の概要 資料 1-1、1-2
- (3) 教育課程編成委員会 規程 資料 2
- (4) 組織図 資料 3
- (5) 学校基礎情報 資料 4
- (6) 平成28年度 授業評価 資料 5-1
- (7) 臨床実習指導者による学生の総合評価 資料 5-2

6. 議事録

- (1) 校長挨拶
- (2) 教育課程編成委員の紹介
- (3) 本校教職員の紹介
- (4) 学校評価と教育課程編成委員会の概要説明
- (5) 学校の基本情報説明
- (6) 学科の人材育成像、重点取組みの報告
- (7) 授業評価報告
- (8) 臨床実習指導者の評価（外部アンケート）報告
- (9) 各職能団体の委員との意見交換 ※分科会
 - ・作業療法学科

校長) 本校の教育に期待する事、求める人材像、業界の情報、どんなことでも構いませんので、ご意見をお聞かせください。

田福委員) 私どもの求める人材像は、まずは元気であること。新人の入職は刺激になりますが、元気な人は職場の明るい雰囲気や、周り職員のモチベーション、職場風土そのものを創り出してくれますから。さらには人間性と意欲を重視して、採用活動をしています。

校長) 本校の卒業生で貴院の入職者はどのような印象ですか？

田福委員) 前向きな人が多く、自分自身が勉強させてもらう事も多いです。ただ、臨床実習においては見極めが必要な学生もいます。そういった事情の学生も含めて臨床で指導・教育をしていくことが、我々の役割として考えています。

中森委員) 私は臨床実習の他に「地域作業療法学Ⅰ」の講義を非常勤で受け持っています。井上学科長の要望により“現場力”を前面に打ち出した内容で展開しています。金沢リハビリテーションアカデミーの学生の印象は、キラキラ輝いていて、自分が療法士の卵だった時代を思い出させてくれます。前は、最終日に学生から授業を通して学んだことを一人ひとり書いた色紙をもらい、本当に感動しました。講義をする立場でありながら、初心に帰る機会を頂いていると思っています。

校長) 東川先生には石川県作業療法士会 会長としてのご意見も伺いたいと思います。

東川委員) 教育活動を良くしていくという趣旨で、あえて厳しい意見を箇条的に言わせて頂きます。

- ・学生のコミュニケーション能力について
基本的な日本語が出来ていないことが気になります。セラピストは患者さんの表情や雰囲気、声のトーンから、患者さんが言おうとしている事やストレートに伝えられない想いを推し量って読み取れなければならない。そういった能力を養うために、まずは日本語を話す力を鍛えてほしいと思います。

校長) 文章やレポート等を「書く」教育に力を入れてまいりましたが、「書く」以前に「話す」がいかに重要かをあらためて痛感しました。

- 東川委員) ・建学理念、教育目標について
プロフェッショナルを目指す学生を育ててほしいと思います。
「感動の共有」とは、理学・作業療法士として関わり、患者さんの目標を達成できた時に初めて実現できるものと考えています。そして専門職の立場で地域に貢献し、専門職の立場でマネジメントをするためには、専門的な技術や知識が絶対的に必要不可欠であることの意識づけを強化してほしいと思います。

・業界の課題と今後について

近年の学生は卒後に勉強をしない傾向があります。作業療法士会も免許取得後に働きながら修行を積むような卒業教育の制度（例えば医師の研修医制度）ができることを望んでいますが、現制度の中では、継続して研修会等の参加を促しています。養成校は免許取得がゴールではなく、スタートであるという認識が持てるような教育をしてもらいたいと思います。

・教育の成果について

養成校の教育成果は、ひとつのバロメーターとして「離職率」で測れると思います。良い教育を施し、「感動の共有」が実現した時、きっとセラピストを一生の業として続けるものと考えます。他校でも離職率は開示してもらえないのですが、是非とも離職率の調査と情報開示を提案したいと思います。

教員) 離職率の取り方はどのような定義で調査をしたらよいのでしょうか。

東川委員) 3年を目安として調査してみたいかと思いますが、実際に働いてみて作業療法士という職業が自分に向かないことが判明してしまうこともあるかもしれないし、職場が合わないという理由で療法士として転職を選択することもあるかもしれないが、最初の就職の離職率は養成校の教育成果を図る一つの指標となるのではないかと考えています。

校長) 多くのご指摘をいただき有難うございます。基礎的な技術・知識の強化や、話すという基本的なこと、今後の改善にどういった取組が有効か、具体的な方法を教員会議等で協議していきます。

・理学療法学科

校長) 本校の理念・育成人材像・教育目標に対するご意見、どんなことでも構いませんので、ご意見をお聞かせください。

校長) 西田先生がお勤めの芳珠記念病院は本校の学生も多く採用して頂いていますが、採用にあたり重視していることがあればお聞かせください。

西田委員) どのような質問に対しても、「自分の言葉」で話せることを一番重視しています。どの養成校も面接指導でとても練習をしているようなのですが、残念ながら教科書的で誰に質問しても同じ回答で学生の人間性が見えないことが多いです。準備してきた回答であっても、自分の考えをエッセンスとして加えて「自分の言葉」で話してくれると、学生の“人となり”が伝わってきます。採用側とすれば、回答に詰まっても構わないので、一生懸命に考えて話す姿をみたいのです。

校長) 「自分の言葉」で話せる学生を育成するには、教育現場でどのような指導に力を入れていくと良いと考えられますか。または、学生はどうやったら、「自分の言葉」で話せるようになると思いますか。

西田委員) どんな時や場面においても自分の意見を持って臨んでいること、普段から自分の考えをもって物事に取組んでいること、という所ではないかと思います。最近の若い人は、素直に指示をした事を全く外すことなくこなす傾向があります。見方を変えると、これは“トレース”するという行動であって、自分の考えや意見を持っていない裏返しだと感じます。目の前で起こっている事柄に対して、自分の意見を持って臨み考えて進める人と、意見を持たずにそのまま進めていく人では、面接に限らず、仕事をしていく中で大きな差がついてしまうと思います。

校長) 確かに「自分の言葉」で話すことが出来ないばかりに、臨床実習で主体性がないと指摘を受けてしまう学生が目立ちます。

山崎委員) 私からは説明頂いた内容について意見を述べさせていただきます。

・本校 理学療法学科の目標について

肩関節の症例は臨床の場では数えるほどしかないのに、なぜ肩関節を学科目標のメインにしたのか、また学生からその理由を質問された場合に、どのように答えているのか教えて頂きたいと思います。

校長) 他の関節をないがしろにするものではないので誤解の無いように補足説明しますと、学内の授業でできることには限りがありますので、全体を見たうえで特に肩関節に高い見識を持った学生の育成という目標を定め取組んでいるということです。

山崎委員) ・養成校の教育において重視すべきことについて

私は、セラピストの原点は「障がいはどう対処するか、障がいをどう見つめるか」ということだと思います。最近「スポーツ障害」という入口から理学療法士を目指す人も増えてきましたが、教育においては「本来、療法士は障害のプロである」ということを教えることが大切だと考えています。

そして臨床実習で指導をしているとリスク管理が非常に弱いことを感じますので、養成校では基本的にリスク管理にしっかりと重点を置いたほうが良いと思います。

・共通科目 コミュニケーション学について

話し方について、緊張でしどろもどろになる学生もいますが、多くの学生において、基本的な日本語が正しく話せないことが問題点として挙げられます。例えば謙譲語、尊敬語など、まずは会話の原点である日本語を教えていく必要があると思います。

また、接遇についても、身だしなみを例に挙げると、茶髪・ピアス・カラーコンタクトの禁止（否定）は、学校時代に限られたルールではなく、“診療に必要ないものであるから認められていない”という社会の一定のルール＝許容ラインを肯定的に教えていくことが必要だと感じます。

・1コマ当たりの授業時間の短縮について

授業評価に対する考察のところで意見のあった1コマ当たりの授業時間の短縮については反対意見です。それは勤務先によっては“ラウンド&カンファレンス”のような長時間の会議があり、学生のうちから集中力・耐久性を鍛えておく必要があると考えるからです。学生の興味、講義内容の難易度、様々な教員が講義を担当する中で、学生の評価をあげることは非常に難しいとは思いますが、どれだけ学生にあわせられるかが教える側のひとつのポイントになると思います。

・臨床実習指導者アンケート

リーダーチャート左側（知識・技術面）の評価が低い原因は、単純に基礎的な質問であっても答えられないというものと、答えが分かっている間違えると叱られると萎縮して答えられないという二つの理由があると思います。前者は養成校では基礎知識をしっかり教えていくのは当然のことなので非常に問題ですが、後者は仮に間違った回答をしたとしても「教えてもらう」という姿勢を教育していくことが大切ではないかと感じます。

校長) JCHO金沢病院は多くの実習生を受け入れられていますが、本校の学生は相対的に基礎的な知識が欠落していると感じられますか？

山崎委員) JCHO金沢病院では臨床実習を8校受け入れているが、例えば基礎知識の修得度について県内国立大学の学生と比較すれば、金沢リハビリテーションアカデミーの学生はあまり答えられません。しかし「答えられる＝すべてできている」とは異なるものであり、基礎知識を携え且つ、受け持った患者さんが、その実習生に診てもらえたことを嬉しいと感じられるような人間教育をしていくことが大切だと思います。

- 校長) 人間教育には引き続き重点を置き、今後は学校として本校の学生が出来ること・出来ていないことを的確に把握し、まずは基礎的な知識・技術の教育に力を入れてまいりたいと思いますので、引き続きご指摘を賜りたいと思います。
- 校長) 神戸先生には石川県理学療法士会 会長としてのご意見も伺いたいと思います。
- 神戸委員) ・理念・育成人材像・教育目標について
私は、建学の理念「自制心、信念、良心、思いやり」という人間教育が一番大事だと考えています。
理由は、若手でも知識や技術が伴ってきた頃に、早ければ3年ほどで病棟担当や地域を任せられマネジメント能力を求められます。ですから人間性や人間関係を構築する力を身につけておくことが重要と考えています。昨今問題になっている介護業界のパワーハラスメントやモラル問題に起因する事件は、リーダーや責任者の人間性が大きく関わっている顕著な例だと思います。
二つ目の理由は、学生時代に“知識・技術・安全面の研鑽を積み重ねていくこと”、“職業人として高い倫理観とともに自己成長し続けること”という理念をしっかりと叩き込まれて人間教育されたセラピストは、卒後も自ずと成長できると考えているからです。
患者に対して“どれだけ一生懸命にやれるか”という態度や姿勢で向き合い、それによって共感を生み出した経験こそが、我々がセラピストを続ける一番の原動力になります。そういった精神を持った学生を育ててもらいたいと思います。
- ・理学療法士の取り巻く現状
社会情勢は地域リハビリテーション、地域包括リハビリテーションの時代であり、急性期医療～回復期～生活期の連携が必要になっています。高齢者特有の認知症の問題も大きくなっています。また疾患では骨癌系の領域拡大によって、疾患の疾病も変化をしています。大学の教育課程は慢性疼痛を取り入れ、内科や整形でも精神分野の治療をする心の時代になりました。
こういった背景のなかで理学療法士もグローバルに物をみる柔軟な思考と地域に特化し協調していくことが必要だと考えていますし、個人的にこれらの新しい領域は人の人生を最も左右する治療で、理学療法士として最も力を発揮できる場面だと感じていますので、臨床実習で伝えていきたいと考えています。
- 山崎委員) がんリハ、疼痛、精神分野などの新しい領域への取組みは、仮に理学・作業療法士が研修医制度になればクリアできる問題だと思うが、現状制度の中では、臨床実習で症例を実際にみせていかなければならないと思っています。
学校側がそういった領域を学生にみせてもらえるように、実習施設側に対して働きかけていくことが必要だと思います。臨床との兼ね合いも含め、学校としてどう教育するのかということを検討してもらいたいと思います。
- 神戸委員) 理学療法士の育成については、卒前教育の時間数には限りがあるので、卒後教育と併せて考えていく必要性があると考えています。理学療法士協会でも他団体（医師会、看護協会、作業療法士協会）の卒後研修制度をみつめ検討しています。
- 校長) 今まで以上に組織として学校と実習施設が双方向で提案や意見交換を密に行い、お話に上がった社会の課題を解決していけるような人材を輩出できるように努力したいと思います。